

対象技術一覧

	番号	先進医療技術名称		適応症修正案
		現行	新技術名(案)	
整形外科関係	34	脊椎腫瘍に対する腫瘍脊椎骨全摘術(原発性脊椎腫瘍又は転移性脊椎腫瘍に係るものに限る。)	腫瘍脊椎骨全摘術	脊椎腫瘍
	59	超音波骨折治療法(四肢の骨折(治療のために手術中に行われるものを除く。)のうち、観血的手術を実施したもの(開放骨折又は粉碎骨折に係るものを除く。)に係るものに限る。)	超音波骨折治療法	四肢の骨折(治療のために手術中に行われるものを除く。)のうち、観血的手術を実施したもの(開放骨折又は粉碎骨折に係るものを除く。)
	70	骨移動術による関節温存型再建(骨軟部腫瘍切除後の骨欠損に係るものに限る。)	骨移動術による関節温存型再建	骨軟部腫瘍切除後の骨欠損症例
産婦人科関係	1	高周波切除器を用いた子宮腺筋症核出術	高周波切除器を用いた子宮腺筋症核出術	子宮腺筋症
	86	マイクロ波子宮内膜アブレーション(機能性及び器質性過多月経(ただし、妊孕性の温存が必要な場合又は子宮内膜がん、異型内膜増殖症その他の悪性疾患及びその疑いがある場合を除く。)であって、子宮壁厚十ミリメートル以上の症例に係るものに限る。)	マイクロ波子宮内膜アブレーション	機能性及び器質性過多月経(ただし、妊孕性の温存が必要な場合又は子宮内膜がん、異型内膜増殖症その他の悪性疾患及びその疑いがある場合を除く。)であって、子宮壁厚十ミリメートル以上の症例に係るものに限る。)
その他	9	人工括約筋を用いた尿失禁の治療	人工括約筋を用いた尿失禁手術	尿失禁
	25	門脈圧亢進症に対する経頸静脈肝内門脈大循環短絡術(内視鏡的治療若しくは薬物治療抵抗性の食道静脈瘤又は胃静脈瘤、門脈圧亢進症性胃腸症、難治性腹水又は難治性肝性胸水に係るものに限る。)	経頸静脈肝内門脈大循環短絡術	内視鏡的治療若しくは薬物治療抵抗性の食道静脈瘤又は胃静脈瘤、門脈圧亢進症性胃腸症、難治性腹水又は難治性肝性胸水
	44	エキシマレーザー冠動脈形成術(経皮的冠動脈形成術(エキシマレーザー冠動脈形成術を除く。)による治療が困難なもの、慢性完全閉塞のもの又はこれに準ずるものに限る。)	エキシマレーザー冠動脈形成術	エキシマレーザー冠動脈形成術を除く。)による治療が困難なもの、慢性完全閉塞のもの又はこれに準ずるもの
	77	多焦点眼内レンズを用いた水晶体再建術(白内障に係るものに限る。)	多焦点眼内レンズを用いた水晶体再建術	白内障

番号	先進医療技術名称		適応症修正案
	現行	新技術名(案)	
91	大腸腫瘍に対する内視鏡的粘膜下層剥離術(早期大腸がん(EMR(内視鏡的粘膜切除術をいう。以下同じ。))では一括切除が困難な二センチメートル以上の病変であって、拡大内視鏡診断又は超音波内視鏡診断による十分な術前評価の結果、根治性が期待できるものに限る。)	内視鏡的大腸粘膜下層剥離術	早期大腸がん(EMR(内視鏡的粘膜切除術をいう。以下同じ。))では一括切除が困難な二センチメートル以上の病変であって、拡大内視鏡診断又は超音波内視鏡診断による十分な術前評価の結果、根治性が期待できるものに限る。)

I. 実施責任医師の要件

I-01 診療科(医師)

	番号	先進医療技術名称	現行	修正案
整形外科	34	脊椎腫瘍に対する腫瘍脊椎骨全摘術	整形外科	(変更なし)
	59	超音波骨折治療法	整形外科	(変更なし)
	70	骨移動術による関節温存型再建	整形外科	(変更なし)
産婦人科	1	高周波切除器を用いた子宮腺筋症核出術	産婦人科	(変更なし)
	86	マイクロ波子宮内膜アブレーション	産婦人科又は婦人科	(変更なし)
その他	9	人工括約筋を用いた尿失禁の治療	泌尿器科	(変更なし)
	25	門脈圧亢進症に対する経頸静脈肝内門脈大循環短絡術	内科又は消化器科	消化器内科又は消化器外科
	44	エキシマレーザー冠動脈形成術	循環器科	循環器内科
	77	多焦点眼内レンズを用いた水晶体再建術	眼科	(変更なし)
	91	大腸腫瘍に対する内視鏡的粘膜下層剥離術	消化器内科、消化器外科、内視鏡内科又は内視鏡外科	(変更なし)

I-02 資格

	番号	先進医療技術名称	現行	修正案
整形外科	34	脊椎腫瘍に対する腫瘍脊椎骨全摘術	整形外科専門医	(変更なし)
	59	超音波骨折治療法	整形外科専門医	(変更なし)
	70	骨移動術による関節温存型再建	整形外科専門医	(変更なし)
産婦人科	1	高周波切除器を用いた子宮腺筋症核出術	産婦人科専門医	(変更なし)
	86	マイクロ波子宮内膜アブレーション	産婦人科専門医	(変更なし)
その他	9	人工括約筋を用いた尿失禁の治療	泌尿器科専門医	(変更なし)
	25	門脈圧亢進症に対する経頸静脈肝内門脈大循環短絡術	肝臓専門医	(変更なし)
	44	エキシマレーザー冠動脈形成術	循環器専門医	(変更なし)
	77	多焦点眼内レンズを用いた水晶体再建術	眼科専門医	(変更なし)
	91	大腸腫瘍に対する内視鏡的粘膜下層剥離術	消化器内視鏡専門医	(変更なし)

分類	⑤体腔鏡以外の手術 (10 技術)
----	-------------------

I-03 当該診療科の経験年数

	番号	先進医療技術名称	現 行	修 正 案
整形 外	34	脊椎腫瘍に対する腫瘍脊椎骨全摘術	—	10 年以上
	59	超音波骨折治療法	5 年以上	(変更なし)
	70	骨移動術による関節温存型再建	5 年以上	(変更なし)
産 婦	1	高周波切除器を用いた子宮腺筋症核出術	10 年以上	5 年以上
	86	マイクロ波子宮内膜アブレーション	5 年以上	(変更なし)
そ の 他	9	人工括約筋を用いた尿失禁の治療	5 年以上	(変更なし)
	25	門脈圧亢進症に対する経頸静脈肝内門脈大循環短絡術	—	5 年以上
	44	エキシマレーザー冠動脈形成術	5 年以上	(変更なし)
	77	多焦点眼内レンズを用いた水晶体再建術	5 年以上	(変更なし)
	91	大腸腫瘍に対する内視鏡的粘膜下層剥離術	5 年以上	(変更なし)

I-04 当該技術の経験年数

	番号	先進医療技術名称	現 行	修 正 案
整形 外	34	脊椎腫瘍に対する腫瘍脊椎骨全摘術	5 年以上	(変更なし)
	59	超音波骨折治療法	1 年以上	(変更なし)
	70	骨移動術による関節温存型再建	5 年以上	(変更なし)
産 婦	1	高周波切除器を用いた子宮腺筋症核出術	3 年以上	(変更なし)
	86	マイクロ波子宮内膜アブレーション	1 年以上	(変更なし)
そ の 他	9	人工括約筋を用いた尿失禁の治療	1 年以上	(変更なし)
	25	門脈圧亢進症に対する経頸静脈肝内門脈大循環短絡術	3 年以上	(変更なし)
	44	エキシマレーザー冠動脈形成術	5 年以上	(変更なし)
	77	多焦点眼内レンズを用いた水晶体再建術	1 年以上	(変更なし)
	91	大腸腫瘍に対する内視鏡的粘膜下層剥離術	1 年以上	(変更なし)

I-05 当該技術の経験症例数

	番号	先進医療技術名称	現 行	修 正 案
整形 外科 関 係	34	脊椎腫瘍に対する腫瘍脊椎骨全摘術	助手又は術者として 20 例以上、 うち術者として 10 例以上	助手又は術者として 10 例以上、うち術 者として 5 例以上
	59	超音波骨折治療法	術者として 1 例以上	(変更なし)
	70	骨移動術による関節温存型再建	助手又は術者として 6 例以上、 うち術者として 3 例以上	(変更なし)
産 婦 人	1	高周波切除器を用いた子宮腺筋症核 出術	助手又は術者として 20 例以上、 うち術者として 10 例以上	術者として 10 例以 上
	86	マイクロ波子宮内膜アブレーション	術者として 3 例以上	(変更なし)
そ の 他	9	人工括約筋を用いた尿失禁の治療	術者として 3 例以上	(変更なし)
	25	門脈圧亢進症に対する経頸静脈肝内 門脈大循環短絡術	助手又は術者として 15 例以上、 うち術者として 10 例以上	(変更なし)
	44	エキシマレーザー冠動脈形成術	術者として 10 例以上	(変更なし)
	77	多焦点眼内レンズを用いた水晶体再 建術	助手又は術者として 15 例以上、 うち術者として 10 例以上	(変更なし)
	91	大腸腫瘍に対する内視鏡的粘膜下層 剥離術	助手又は術者として 20 例以上、 うち術者として 10 例以上	(変更なし)

分類	⑤体腔鏡以外の手術 (10 技術)
----	-------------------

平成 21 年度先進医療 医療機関の要件 (分類別比較)

I-06 その他 (医師)

	番号	先進医療技術名称	現 行	修 正 案
整形 外	34	脊椎腫瘍に対する腫瘍脊椎骨全摘術	—	(変更なし)
	59	超音波骨折治療法	—	(変更なし)
	70	骨移動術による関節温存型再建	—	(変更なし)
産 婦	1	高周波切除器を用いた子宮腺筋症核出術	—	(変更なし)
	86	マイクロ波子宮内膜アブレーション	—	(変更なし)
そ の 他	9	人工括約筋を用いた尿失禁の治療	—	(変更なし)
	25	門脈圧亢進症に対する経頸静脈肝内門脈大循環短絡術	—	(変更なし)
	44	エキシマレーザー冠動脈形成術	—	(変更なし)
	77	多焦点眼内レンズを用いた水晶体再建術	—	(変更なし)
	91	大腸腫瘍に対する内視鏡的粘膜下層剥離術	—	(変更なし)

II-02 実施診療科の医師数

	番号	先進医療技術名称	現 行	修 正 案
整形 外	34	脊椎腫瘍に対する腫瘍脊椎骨全摘術	常勤医師 3 名以上	(変更なし)
	59	超音波骨折治療法	常勤医師 1 名以上	(変更なし)
	70	骨移動術による関節温存型再建	常勤医師 2 名以上	(変更なし)
産 婦	1	高周波切除器を用いた子宮腺筋症核出術	常勤医師 3 名以上	常勤医師 2 名以上
	86	マイクロ波子宮内膜アブレーション	常勤医師 1 名以上	(変更なし)
そ の 他	9	人工括約筋を用いた尿失禁の治療	常勤医師 2 名以上	(変更なし)
	25	門脈圧亢進症に対する経頸静脈肝内門脈大循環短絡術	常勤医師 2 名以上	(変更なし)
	44	エキシマレーザー冠動脈形成術	常勤医師 3 名以上	(変更なし)
	77	多焦点眼内レンズを用いた水晶体再建術	常勤医師 1 名以上	(変更なし)
	91	大腸腫瘍に対する内視鏡的粘膜下層剥離術	常勤医師 2 名以上	(変更なし)

II. 医療機関の要件

II-01 診療科 (医療機関)

	番号	先進医療技術名称	現 行	修 正 案
整形 外	34	脊椎腫瘍に対する腫瘍脊椎骨全摘術	整形外科及び麻酔科	(変更なし)
	59	超音波骨折治療法	整形外科	(変更なし)
	70	骨移動術による関節温存型再建	整形外科及び麻酔科	(変更なし)
産 婦 人	1	高周波切除器を用いた子宮腺筋症核出術	産婦人科	産婦人科又は婦人科
	86	マイクロ波子宮内膜アブレーション	産婦人科又は婦人科	(変更なし)
そ の 他	9	人工括約筋を用いた尿失禁の治療	泌尿器科	(変更なし)
	25	門脈圧亢進症に対する経頸静脈肝内門脈大循環短絡術	内科又は消化器科並びに外科及び麻酔科	消化器内科又は消化器外科、麻酔科及び放射線科
	44	エキシマレーザー冠動脈形成術	循環器科、心臓血管外科及び麻酔科	循環器内科、心臓血管外科及び麻酔科
	77	多焦点眼内レンズを用いた水晶体再建術	眼科	(変更なし)
	91	大腸腫瘍に対する内視鏡的粘膜下層剥離術	消化器内科、消化器外科、内視鏡内科又は内視鏡外科	(変更なし)

II-03 他診療科の医師数

	番号	先進医療技術名称	現 行	修 正 案
整形 外科 関 係	34	脊椎腫瘍に対する腫瘍脊椎骨全摘術	麻酔科医師 1 名以上及び病理医 1 名以上	呼吸器外科専門医 1 名以上消化器外科専門医 1 名以上、病理医 1 名以上
	59	超音波骨折治療法	—	(変更なし)
産 婦 人	70	骨移動術による関節温存型再建	麻酔科医師 1 名以上	(不要)
	1	高周波切除器を用いた子宮腺筋症核出術	—	麻酔科標榜医 1 名以上
そ の 他	86	マイクロ波子宮内膜アブレーション	麻酔科医師 1 名以上	麻酔科標榜医 1 名以上
	9	人工括約筋を用いた尿失禁の治療	麻酔科標榜医 1 名以上	(変更なし)
	25	門脈圧亢進症に対する経頸静脈肝内門脈大循環短絡術	外科医師 2 名以上及び麻酔科医師 1 名以上	外科医師 2 名以上
	44	エキシマレーザー冠動脈形成術	心臓血管外科医師 2 名以上及び麻酔科医師 1 名以上	心臓血管外科医師 2 名以上
	77	多焦点眼内レンズを用いた水晶体再建術	—	(変更なし)
91	大腸腫瘍に対する内視鏡的粘膜下層剥離術	外科医師 2 名以上	(変更なし)	

分類 ⑤体腔鏡以外の手術 (10技術)

II-04 その他医療従事者の配置

番号	先進医療技術名称	現行	修正案
整形外科	34 脊椎腫瘍に対する腫瘍脊椎骨全摘術	理学療法士1名以上	臨床工学技士1名以上
	59 超音波骨折治療法	—	臨床工学技士1名以上
	70 骨移動術による関節温存型再建	—	臨床工学技士1名以上
産婦人科	1 高周波切除器を用いた子宮腺筋症核出術	—	臨床工学技士1名以上
	86 マイクロ波子宮内膜アブレーション	—	臨床工学技士1名以上
その他	9 人工括約筋を用いた尿失禁の治療	—	臨床工学技士1名以上
	25 門脈圧亢進症に対する経頸静脈肝内門脈大循環短絡術	臨床工学技士1名以上	(変更なし)
	44 エキシマレーザー冠動脈形成術	臨床工学技士1名以上	(変更なし)
	77 多焦点眼内レンズを用いた水晶体再建術	—	臨床工学技士1名以上
91 大腸腫瘍に対する内視鏡的粘膜下層剥離術	—	臨床工学技士1名以上	

II-05 病床数

番号	先進医療技術名称	現行	修正案
整形外科	34 脊椎腫瘍に対する腫瘍脊椎骨全摘術	—	200床以上
	59 超音波骨折治療法	1床以上	(変更なし)
	70 骨移動術による関節温存型再建	1床以上	(変更なし)
産婦人科	1 高周波切除器を用いた子宮腺筋症核出術	20床以上	1床以上
	86 マイクロ波子宮内膜アブレーション	1床以上	(変更なし)
その他	9 人工括約筋を用いた尿失禁の治療	1床以上	(変更なし)
	25 門脈圧亢進症に対する経頸静脈肝内門脈大循環短絡術	—	20床以上
	44 エキシマレーザー冠動脈形成術	—	20床以上
	77 多焦点眼内レンズを用いた水晶体再建術	—	(変更なし)
91 大腸腫瘍に対する内視鏡的粘膜下層剥離術	1床以上	(変更なし)	

II-06 看護配置

番号	先進医療技術名称	現行	修正案
整形外科関係	34 脊椎腫瘍に対する腫瘍脊椎骨全摘術	—	(変更なし)
	59 超音波骨折治療法	—	(変更なし)
	70 骨移動術による関節温存型再建	入院患者の数が10又はその端数を増すごとに1名以上(ただし、当該病棟において、一日に看護を行う看護職員の数に相当する数以上である場合には、当該病棟における夜勤を行う看護職員の数、前段の規定にかかわらず、二以上であること。)	(不要)
産婦人科	1 高周波切除器を用いた子宮腺筋症核出術	—	(変更なし)
	86 マイクロ波子宮内膜アブレーション	—	(変更なし)
その他	9 人工括約筋を用いた尿失禁の治療	—	(変更なし)
	25 門脈圧亢進症に対する経頸静脈肝内門脈大循環短絡術	—	(変更なし)
	44 エキシマレーザー冠動脈形成術	—	(変更なし)
	77 多焦点眼内レンズを用いた水晶体再建術	—	(変更なし)
91 大腸腫瘍に対する内視鏡的粘膜下層剥離術	—	(変更なし)	

II-07 当直体制

番号	先進医療技術名称	現行	修正案
整形外科	34 脊椎腫瘍に対する腫瘍脊椎骨全摘術	要	(変更なし)
	59 超音波骨折治療法	要	(不要)
	70 骨移動術による関節温存型再建	要	(変更なし)
産婦人科	1 高周波切除器を用いた子宮腺筋症核出術	要	(変更なし)
	86 マイクロ波子宮内膜アブレーション	要(専ら産婦人科又は婦人科に従事する医師が当直を行っていること)	(変更なし)
その他	9 人工括約筋を用いた尿失禁の治療	要	(変更なし)
	25 門脈圧亢進症に対する経頸静脈肝内門脈大循環短絡術	要	(変更なし)
	44 エキシマレーザー冠動脈形成術	要	(変更なし)
	77 多焦点眼内レンズを用いた水晶体再建術	—	(変更なし)
91 大腸腫瘍に対する内視鏡的粘膜下層剥離術	要	(変更なし)	

II-08 緊急手術の実施体制

番号	先進医療技術名称	現行	修正案
整形外科	34 脊椎腫瘍に対する腫瘍脊椎骨全摘術	要	(変更なし)
	59 超音波骨折治療法	—	(変更なし)
	70 骨移動術による関節温存型再建	要	(変更なし)
産婦人科	1 高周波切除器を用いた子宮腺筋症核出術	要	(変更なし)
	86 マイクロ波子宮内膜アブレーション	要	(変更なし)
その他	9 人工括約筋を用いた尿失禁の治療	要	(変更なし)
	25 門脈圧亢進症に対する経頸静脈肝内門脈大循環短絡術	要	(変更なし)
	44 エキシマレーザー冠動脈形成術	要	(変更なし)
	77 多焦点眼内レンズを用いた水晶体再建術	—	(変更なし)
91 大腸腫瘍に対する内視鏡的粘膜下層剥離術	要(緊急の場合における開腹手術を実施する体制が整備されていること)	(変更なし)	

II-09 院内検査 (24時間実施体制)

番号	先進医療技術名称	現行	修正案
整形外科	34 脊椎腫瘍に対する腫瘍脊椎骨全摘術	要	(変更なし)
	59 超音波骨折治療法	—	(変更なし)
	70 骨移動術による関節温存型再建	要	(変更なし)
産婦人科	1 高周波切除器を用いた子宮腺筋症核出術	要	(変更なし)
	86 マイクロ波子宮内膜アブレーション	要	(変更なし)
その他	9 人工括約筋を用いた尿失禁の治療	要	(変更なし)
	25 門脈圧亢進症に対する経頸静脈肝内門脈大循環短絡術	要	(変更なし)
	44 エキシマレーザー冠動脈形成術	要	(変更なし)
	77 多焦点眼内レンズを用いた水晶体再建術	—	(変更なし)
91 大腸腫瘍に対する内視鏡的粘膜下層剥離術	要	(変更なし)	

分類 ⑤体腔鏡以外の手術 (10 技術)

II-10 他の医療機関との連携体制

	番号	先進医療技術名称	現 行	修 正 案
整形 外	34	脊椎腫瘍に対する腫瘍脊椎骨全摘術	化学療法その他悪性腫瘍に係る治療を行う体制において可	(不要)
	59	超音波骨折治療法	—	(変更なし)
	70	骨移動術による関節温存型再建	—	(変更なし)
産 婦	1	高周波切除器を用いた子宮腺筋症核出術	—	(変更なし)
	86	マイクロ波子宮内膜アブレーション	—	(変更なし)
そ の 他	9	人工括約筋を用いた尿失禁の治療	—	(変更なし)
	25	門脈圧亢進症に対する経頸静脈肝内門脈大循環短絡術	—	(変更なし)
	44	エキシマレーザー冠動脈形成術	—	(変更なし)
	77	多焦点眼内レンズを用いた水晶体再建術	—	(変更なし)
	91	大腸腫瘍に対する内視鏡的粘膜下層剥離術	—	(変更なし)

II-11 医療機器の保守管理体制

	番号	先進医療技術名称	現 行	修 正 案
整形 外	34	脊椎腫瘍に対する腫瘍脊椎骨全摘術	要	(変更なし)
	59	超音波骨折治療法	要	(変更なし)
	70	骨移動術による関節温存型再建	要	(変更なし)
産 婦	1	高周波切除器を用いた子宮腺筋症核出術	要	(変更なし)
	86	マイクロ波子宮内膜アブレーション	要	(変更なし)
そ の 他	9	人工括約筋を用いた尿失禁の治療	要	(変更なし)
	25	門脈圧亢進症に対する経頸静脈肝内門脈大循環短絡術	要	(変更なし)
	44	エキシマレーザー冠動脈形成術	要	(変更なし)
	77	多焦点眼内レンズを用いた水晶体再建術	—	(変更なし)
	91	大腸腫瘍に対する内視鏡的粘膜下層剥離術	要	(変更なし)

II-12 倫理委員会による審査体制

	番号	先進医療技術名称	現 行	修 正 案
整形 外	34	脊椎腫瘍に対する腫瘍脊椎骨全摘術	要(必要なときは必ず事前に開催)	(変更なし)
	59	超音波骨折治療法	—	(変更なし)
	70	骨移動術による関節温存型再建	—	(変更なし)
産 婦	1	高周波切除器を用いた子宮腺筋症核出術	—	(変更なし)
	86	マイクロ波子宮内膜アブレーション	—	(変更なし)
そ の 他	9	人工括約筋を用いた尿失禁の治療	—	(変更なし)
	25	門脈圧亢進症に対する経頸静脈肝内門脈大循環短絡術	要(必要なときは必ず事前に開催)	(変更なし)
	44	エキシマレーザー冠動脈形成術	要(必要なときは必ず事前に開催)	(変更なし)
	77	多焦点眼内レンズを用いた水晶体再建術	—	(変更なし)
	91	大腸腫瘍に対する内視鏡的粘膜下層剥離術	要(届出後当該療養を初めて実施するときは必ず事前に開催)	(変更なし)

II-13 医療安全管理委員会の設置

	番号	先進医療技術名称	現 行	修 正 案
整形 外	34	脊椎腫瘍に対する腫瘍脊椎骨全摘術	要	(変更なし)
	59	超音波骨折治療法	—	(変更なし)
	70	骨移動術による関節温存型再建	要	(変更なし)
産 婦	1	高周波切除器を用いた子宮腺筋症核出術	要	(変更なし)
	86	マイクロ波子宮内膜アブレーション	要	(変更なし)
そ の 他	9	人工括約筋を用いた尿失禁の治療	要	(変更なし)
	25	門脈圧亢進症に対する経頸静脈肝内門脈大循環短絡術	要	(変更なし)
	44	エキシマレーザー冠動脈形成術	要	(変更なし)
	77	多焦点眼内レンズを用いた水晶体再建術	—	(変更なし)
	91	大腸腫瘍に対する内視鏡的粘膜下層剥離術	要	(変更なし)

II-14 当該技術の実施症例数

	番号	先進医療技術名称	現 行	修 正 案
整形 外	34	脊椎腫瘍に対する腫瘍脊椎骨全摘術	5 例以上	(変更なし)
	59	超音波骨折治療法	—	1 例以上
	70	骨移動術による関節温存型再建	3 例以上	(変更なし)
産 婦	1	高周波切除器を用いた子宮腺筋症核出術	5 例以上	(変更なし)
	86	マイクロ波子宮内膜アブレーション	3 例以上	(変更なし)
そ の 他	9	人工括約筋を用いた尿失禁の治療	5 例以上	(変更なし)
	25	門脈圧亢進症に対する経頸静脈肝内門脈大循環短絡術	5 例以上	(変更なし)
	44	エキシマレーザー冠動脈形成術	1 0 例以上	(変更なし)
	77	多焦点眼内レンズを用いた水晶体再建術	1 0 例以上	(変更なし)
	91	大腸腫瘍に対する内視鏡的粘膜下層剥離術	2 0 例以上	(変更なし)

II-15 その他(医療機関)

	番号	先進医療技術名称	現 行	修 正 案
整形 外 科 関 係	34	脊椎腫瘍に対する腫瘍脊椎骨全摘術	病理部門が設置されていること、当該療法の実施後に化学療法その他悪性腫瘍に係る治療を行う体制が整備されていること	病理部門が設置されていること
	59	超音波骨折治療法	—	(変更なし)
	70	骨移動術による関節温存型再建	—	(変更なし)
産 婦 人 科	1	高周波切除器を用いた子宮腺筋症核出術	—	(変更なし)
	86	マイクロ波子宮内膜アブレーション	術中・術後に子宮鏡検査及び超音波検査を実施する体制が整備されていること	(変更なし)
そ の 他	9	人工括約筋を用いた尿失禁の治療	—	(変更なし)
	25	門脈圧亢進症に対する経頸静脈肝内門脈大循環短絡術	—	(変更なし)
	44	エキシマレーザー冠動脈形成術	—	(変更なし)
	77	多焦点眼内レンズを用いた水晶体再建術	—	(変更なし)
	91	大腸腫瘍に対する内視鏡的粘膜下層剥離術	二十四時間画像診断を実施する体制が整備されていること	(変更なし)

分類	⑤体腔鏡以外の手術 (10 技術)
----	-------------------

Ⅲ. その他の要件

Ⅲ-01 頻回の実績報告

	番号	先進医療技術名称	現 行	修 正 案
整形 外	34	脊椎腫瘍に対する腫瘍脊椎骨全摘術	10例まで又は6月間は、 1月毎の報告	(変更なし)
	59	超音波骨折治療法	—	(変更なし)
	70	骨移動術による関節温存型再建	—	(変更なし)
産 婦 人	1	高周波切除器を用いた子宮腺筋症核出術	20症例まで又は6月間 は、1月毎の報告	(不要)
	86	マイクロ波子宮内膜アブレーション	—	(変更なし)
そ の 他	9	人工括約筋を用いた尿失禁の治療	—	(変更なし)
	25	門脈圧亢進症に対する経頸静脈肝内門脈大循環短絡術	—	(変更なし)
	44	エキシマレーザー冠動脈形成術	10例まで又は6月間は、 1月毎の報告	(変更なし)
	77	多焦点眼内レンズを用いた水晶体再建術	—	(変更なし)
	91	大腸腫瘍に対する内視鏡的粘膜下層剥離術	6月間は1月毎の報告	(変更なし)

Ⅲ-02 その他

	番号	先進医療技術名称	現 行	修 正 案
整形 外	34	脊椎腫瘍に対する腫瘍脊椎骨全摘術	—	(変更なし)
	59	超音波骨折治療法	—	(変更なし)
	70	骨移動術による関節温存型再建	—	(変更なし)
産 婦	1	高周波切除器を用いた子宮腺筋症核出術	—	(変更なし)
	86	マイクロ波子宮内膜アブレーション	—	(変更なし)
そ の 他	9	人工括約筋を用いた尿失禁の治療	—	(変更なし)
	25	門脈圧亢進症に対する経頸静脈肝内門脈大循環短絡術	—	(変更なし)
	44	エキシマレーザー冠動脈形成術	—	(変更なし)
	77	多焦点眼内レンズを用いた水晶体再建術	—	(変更なし)
	91	大腸腫瘍に対する内視鏡的粘膜下層剥離術	—	(変更なし)

対象技術一覧

番号	先進医療技術名称		適応症修正案
	現 行	新 技術 名 (案)	
整形外科関係	39	骨軟部腫瘍切除後骨欠損に対する自家液体窒素処理骨移植	自家液体窒素処理骨移植 骨軟部腫瘍切除後骨欠損症例
	61	非生体ドナーから採取された同種骨・靭帯組織の凍結保存 (骨又は靭帯の再建術であって、先天性疾患、外傷性 (欠損性又は感染性偽関節に係るものに限る。)、骨腫瘍切除後、関節固定術時若しくは人工関節置換術時 (初回又は再置換術時に限る。)) の広範囲骨欠損、脊椎固定術時の骨融合促進又は靭帯断裂による関節不安定性に係るものに限る。)	非生体ドナーから採取された同種骨・靭帯組織の凍結保存 骨又は靭帯組織の欠損
	3	凍結保存同種組織を用いた外科治療	凍結保存同種組織を用いた外科治療 心臓弁又は血管を移植する手術症例 (組織の凍結保存及び外科治療を同一施設内で行うものに限る。)
その他	32	難治性眼疾患に対する羊膜移植術 (再発翼状片、角膜上皮欠損 (角膜移植によるものを含む。)、角膜穿孔、角膜化学腐食、角膜瘻痕、瞼球癒着 (ステープルス・ジョンソン症候群、眼類天疱瘡、熱・化学外傷瘻痕その他の重症の瘻痕性角結膜疾患を含む。)、結膜上皮内過形成又は結膜腫瘍その他の眼表面疾患に係るものに限る。)	難治性眼疾患に対する羊膜移植術 再発翼状片、角膜上皮欠損 (角膜移植によるものを含む。)、角膜穿孔、角膜化学腐食、角膜瘻痕、瞼球癒着 (ステープルス・ジョンソン症候群、眼類天疱瘡、熱・化学外傷瘻痕その他の重症の瘻痕性角結膜疾患を含む。)、結膜上皮内過形成又は結膜腫瘍その他の眼表面疾患
	50	H L A 抗原不一致血縁ドナーからの C D 34 陽性造血幹細胞移植 (H L A 適合ドナーがないために造血幹細胞移植が受けられない小児のがん、難治性造血障害又は免疫不全症に係るものに限る。)	H L A 適合ドナーがないために造血幹細胞移植が受けられない小児のがん、難治性造血障害又は免疫不全症

I. 実施責任医師の要件

I-01 診療科 (医師)

番号	先進医療技術名称	現 行	修 正 案
整形外科	39 骨軟部腫瘍切除後骨欠損に対する自家液体窒素処理骨移植	整形外科	(変更なし)
	61 非生体ドナーから採取された同種骨・靭帯組織の凍結保存	整形外科	(変更なし)
その他	3 凍結保存同種組織を用いた外科治療	外科、心臓血管外科、小児外科又は泌尿器科	(変更なし)
	32 難治性眼疾患に対する羊膜移植術	眼科	(変更なし)
	50 H L A 抗原不一致血縁ドナーからの C D 34 陽性造血幹細胞移植	内科又は小児科	(変更なし)

I-02 資格

番号	先進医療技術名称	現 行	修 正 案
整形外科	39 骨軟部腫瘍切除後骨欠損に対する自家液体窒素処理骨移植	整形外科専門医	(変更なし)
	61 非生体ドナーから採取された同種骨・靭帯組織の凍結保存	整形外科専門医	(変更なし)
その他	3 凍結保存同種組織を用いた外科治療	外科専門医、心臓血管外科専門医、小児外科専門医又は泌尿器科専門医	(変更なし)
	32 難治性眼疾患に対する羊膜移植術	眼科専門医	(変更なし)
	50 H L A 抗原不一致血縁ドナーからの C D 34 陽性造血幹細胞移植	血液専門医	(変更なし)

I-03 当該診療科の経験年数

番号	先進医療技術名称	現 行	修 正 案
整形外科	39 骨軟部腫瘍切除後骨欠損に対する自家液体窒素処理骨移植	—	5 年以上
	61 非生体ドナーから採取された同種骨・靭帯組織の凍結保存	5 年以上	(変更なし)
その他	3 凍結保存同種組織を用いた外科治療	10 年以上	(変更なし)
	32 難治性眼疾患に対する羊膜移植術	5 年以上	(変更なし)
	50 H L A 抗原不一致血縁ドナーからの C D 34 陽性造血幹細胞移植	—	5 年以上

I-04 当該技術の経験年数

番号	先進医療技術名称	現 行	修 正 案
整形外科	39 骨軟部腫瘍切除後骨欠損に対する自家液体窒素処理骨移植	5 年以上	(変更なし)
	61 非生体ドナーから採取された同種骨・靭帯組織の凍結保存	5 年以上	(変更なし)
その他	3 凍結保存同種組織を用いた外科治療	5 年以上	(変更なし)
	32 難治性眼疾患に対する羊膜移植術	5 年以上	(変更なし)
	50 H L A 抗原不一致血縁ドナーからの C D 34 陽性造血幹細胞移植	5 年以上	(変更なし)

分類	⑥ 移植術関係 (5 技術)
----	----------------

I-05 当該技術の経験症例数

	番号	先進医療技術名称	現 行	修 正 案
整形外	39	骨軟部腫瘍切除後骨欠損に対する自家液体窒素処理骨移植	術者として 5 例以上	(変更なし)
	61	非生体ドナーから採取された同種骨・靭帯組織の凍結保存	助手又は術者として 5 例以上、うち術者として 3 例以上	(変更なし)
その他	3	凍結保存同種組織を用いた外科治療	助手又は術者として 15 例以上、うち術者として 10 例以上	(変更なし)
	32	難治性眼疾患に対する羊膜移植術	助手又は術者として 6 例以上、うち術者として 3 例以上	(変更なし)
	50	H L A 抗原不一致血縁ドナーからの CD34 陽性造血幹細胞移植	術者として 3 例以上	(変更なし)

I-06 その他 (医師)

	番号	先進医療技術名称	現 行	修 正 案
整形外	39	骨軟部腫瘍切除後骨欠損に対する自家液体窒素処理骨移植	—	(変更なし)
	61	非生体ドナーから採取された同種骨・靭帯組織の凍結保存	—	(変更なし)
その他	3	凍結保存同種組織を用いた外科治療	—	(変更なし)
	32	難治性眼疾患に対する羊膜移植術	—	(変更なし)
	50	H L A 抗原不一致血縁ドナーからの CD34 陽性造血幹細胞移植	—	(変更なし)

II. 医療機関の要件

II-01 診療科 (医療機関)

	番号	先進医療技術名称	現 行	修 正 案
整形外	39	骨軟部腫瘍切除後骨欠損に対する自家液体窒素処理骨移植	整形外科及び麻酔科	整形外科
	61	非生体ドナーから採取された同種骨・靭帯組織の凍結保存	整形外科	(変更なし)
その他	3	凍結保存同種組織を用いた外科治療	外科、心臓血管外科、小児外科又は泌尿器科及び麻酔科	(変更なし)
	32	難治性眼疾患に対する羊膜移植術	眼科、産科及び麻酔科	(変更なし)
	50	H L A 抗原不一致血縁ドナーからの CD34 陽性造血幹細胞移植	内科又は小児科	(変更なし)

II-02 実施診療科の医師数

	番号	先進医療技術名称	現 行	修 正 案
整形外	39	骨軟部腫瘍切除後骨欠損に対する自家液体窒素処理骨移植	常勤医師 3 名以上	(変更なし)
	61	非生体ドナーから採取された同種骨・靭帯組織の凍結保存	整形外科専門医である常勤医師 2 名以上	(変更なし)
その他	3	凍結保存同種組織を用いた外科治療	常勤医師 3 名以上	(変更なし)
	32	難治性眼疾患に対する羊膜移植術	常勤医師 3 名以上	(変更なし)
	50	H L A 抗原不一致血縁ドナーからの CD34 陽性造血幹細胞移植	常勤医師 2 名以上	(変更なし)

II-03 他診療科の医師数

	番号	先進医療技術名称	現 行	修 正 案
整形外	39	骨軟部腫瘍切除後骨欠損に対する自家液体窒素処理骨移植	麻酔科医師 1 名以上及び病理医 1 名以上	病理医 1 名以上
	61	非生体ドナーから採取された同種骨・靭帯組織の凍結保存	麻酔科標榜医 1 名以上	(変更なし)
その他	3	凍結保存同種組織を用いた外科治療	麻酔科医師 1 名以上	(削除)
	32	難治性眼疾患に対する羊膜移植術	産科医師 1 名以上、麻酔科医師 1 名以上、輸血部門常勤医師 1 名以上	産科医師 1 名以上、及び輸血部門常勤医師 1 名以上
	50	H L A 抗原不一致血縁ドナーからの CD34 陽性造血幹細胞移植	輸血部門常勤医師 1 名以上	(変更なし)

II-04 その他医療従事者の配置

	番号	先進医療技術名称	現 行	修 正 案
整形外	39	骨軟部腫瘍切除後骨欠損に対する自家液体窒素処理骨移植	理学療法士 1 名以上	(削除)
	61	非生体ドナーから採取された同種骨・靭帯組織の凍結保存	組織移植を専ら担当する者 1 名以上	(削除)
その他	3	凍結保存同種組織を用いた外科治療	臨床工学技士 1 名以上	(変更なし)
	32	難治性眼疾患に対する羊膜移植術	専任の細胞培養を担当する者 1 名以上	(変更なし)
	50	H L A 抗原不一致血縁ドナーからの CD34 陽性造血幹細胞移植	専任の細胞培養を担当する者 1 名以上	(変更なし)

分類	⑥ 移植術関係 (5 技術)
----	----------------

II-05 病床数

	番号	先進医療技術名称	現 行	修 正 案
整形 外	39	骨軟部腫瘍切除後骨欠損に対する自家液体窒素処理骨移植	—	20床以上
	61	非生体ドナーから採取された同種骨・靭帯組織の凍結保存	1床以上	(変更なし)
その 他	3	凍結保存同種組織を用いた外科治療	200床以上	(変更なし)
	32	難治性眼疾患に対する羊膜移植術	—	(変更なし)
	50	H L A 抗原不一致血縁ドナーからの C D 34 陽性造血幹細胞移植	—	(変更なし)

II-08 緊急手術の実施体制

	番号	先進医療技術名称	現 行	修 正 案
整形 外	39	骨軟部腫瘍切除後骨欠損に対する自家液体窒素処理骨移植	要	(変更なし)
	61	非生体ドナーから採取された同種骨・靭帯組織の凍結保存	要	(変更なし)
その 他	3	凍結保存同種組織を用いた外科治療	要	(変更なし)
	32	難治性眼疾患に対する羊膜移植術	要	(変更なし)
	50	H L A 抗原不一致血縁ドナーからの C D 34 陽性造血幹細胞移植	要	(変更なし)

II-06 看護配置

	番号	先進医療技術名称	現 行	修 正 案
整形 外	39	骨軟部腫瘍切除後骨欠損に対する自家液体窒素処理骨移植	—	(変更なし)
	61	非生体ドナーから採取された同種骨・靭帯組織の凍結保存	—	(変更なし)
その 他	3	凍結保存同種組織を用いた外科治療	入院患者の数が10又はその端数を増すごとに1名以上(ただし、当該病棟において、一日に看護を行う看護職員の数が前段に規定する数に相当する数以上である場合には、当該病棟における夜勤を行う看護職員の数が、前段の規定にかかわらず、二以上であること。)	(削除)
	32	難治性眼疾患に対する羊膜移植術	—	(変更なし)
	50	H L A 抗原不一致血縁ドナーからの C D 34 陽性造血幹細胞移植	—	(変更なし)

II-09 院内検査 (24 時間実施体制)

	番号	先進医療技術名称	現 行	修 正 案
整形 外	39	骨軟部腫瘍切除後骨欠損に対する自家液体窒素処理骨移植	要	(変更なし)
	61	非生体ドナーから採取された同種骨・靭帯組織の凍結保存	要	(変更なし)
その 他	3	凍結保存同種組織を用いた外科治療	要	(変更なし)
	32	難治性眼疾患に対する羊膜移植術	要	(変更なし)
	50	H L A 抗原不一致血縁ドナーからの C D 34 陽性造血幹細胞移植	要	(変更なし)

II-10 他の医療機関との連携体制

	番号	先進医療技術名称	現 行	修 正 案
整形 外	39	骨軟部腫瘍切除後骨欠損に対する自家液体窒素処理骨移植	化学療法その他悪性腫瘍に係る治療を行う体制において可	(削除)
	61	非生体ドナーから採取された同種骨・靭帯組織の凍結保存	—	(変更なし)
その 他	3	凍結保存同種組織を用いた外科治療	—	(変更なし)
	32	難治性眼疾患に対する羊膜移植術	—	(変更なし)
	50	H L A 抗原不一致血縁ドナーからの C D 34 陽性造血幹細胞移植	—	(変更なし)

II-11 医療機器の保守管理体制

	番号	先進医療技術名称	現 行	修 正 案
整形 外	39	骨軟部腫瘍切除後骨欠損に対する自家液体窒素処理骨移植	要	(変更なし)
	61	非生体ドナーから採取された同種骨・靭帯組織の凍結保存	要	(変更なし)
その 他	3	凍結保存同種組織を用いた外科治療	要	(変更なし)
	32	難治性眼疾患に対する羊膜移植術	要	(変更なし)
	50	H L A 抗原不一致血縁ドナーからの C D 34 陽性造血幹細胞移植	要	(変更なし)

II-07 当直体制

	番号	先進医療技術名称	現 行	修 正 案
整形 外	39	骨軟部腫瘍切除後骨欠損に対する自家液体窒素処理骨移植	要	(変更なし)
	61	非生体ドナーから採取された同種骨・靭帯組織の凍結保存	要	(変更なし)
その 他	3	凍結保存同種組織を用いた外科治療	要	(変更なし)
	32	難治性眼疾患に対する羊膜移植術	要	(変更なし)
	50	H L A 抗原不一致血縁ドナーからの C D 34 陽性造血幹細胞移植	要	(変更なし)

分類	⑥ 移植術関係 (5 技術)
----	----------------

II-12 倫理委員会による審査体制

	番号	先進医療技術名称	現 行	修 正 案
整形外	39	骨軟部腫瘍切除後骨欠損に対する自家液体室素処理骨移植	要 (必要なときは必ず事前に開催)	(変更なし)
	61	非生体ドナーから採取された同種骨・靭帯組織の凍結保存	要 (必要なときは必ず事前に開催)	(変更なし)
その他	3	凍結保存同種組織を用いた外科治療	要 (必要なときは必ず事前に開催)	(変更なし)
	32	難治性眼疾患に対する羊膜移植術	要 (必要なときは必ず事前に開催)	(変更なし)
	50	H L A 抗原不一致血縁ドナーからの CD34 陽性造血幹細胞移植	要 (必要なときは必ず事前に開催)	(変更なし)

II-13 医療安全管理委員会の設置

	番号	先進医療技術名称	現 行	修 正 案
整形外	39	骨軟部腫瘍切除後骨欠損に対する自家液体室素処理骨移植	要	(変更なし)
	61	非生体ドナーから採取された同種骨・靭帯組織の凍結保存	要	(変更なし)
その他	3	凍結保存同種組織を用いた外科治療	要	(変更なし)
	32	難治性眼疾患に対する羊膜移植術	要	(変更なし)
	50	H L A 抗原不一致血縁ドナーからの CD34 陽性造血幹細胞移植	要	(変更なし)

II-14 当該技術の実施症例数

	番号	先進医療技術名称	現 行	修 正 案
整形外	39	骨軟部腫瘍切除後骨欠損に対する自家液体室素処理骨移植	5 例以上	(変更なし)
	61	非生体ドナーから採取された同種骨・靭帯組織の凍結保存	5 例以上	(変更なし)
その他	3	凍結保存同種組織を用いた外科治療	10 例以上	(変更なし)
	32	難治性眼疾患に対する羊膜移植術	3 例以上	(変更なし)
	50	H L A 抗原不一致血縁ドナーからの CD34 陽性造血幹細胞移植	3 例以上	(変更なし)

II-15 その他 (医療機関)

	番号	先進医療技術名称	現 行	修 正 案
整形外	39	骨軟部腫瘍切除後骨欠損に対する自家液体室素処理骨移植	病理部門が設置されていること、当該療法の実施後に化学療法その他悪性腫瘍に係る治療を行う体制が整備されていること	(削除)
	61	非生体ドナーから採取された同種骨・靭帯組織の凍結保存	日本組織移植学会の認定する組織バンクを有していること	(変更なし)
その他	3	凍結保存同種組織を用いた外科治療	日本組織移植学会の認定する施設であること	日本組織移植学会の認定する組織バンクを有していること
	32	難治性眼疾患に対する羊膜移植術	輸血部門が設置されていること、院内で細胞培養を実施していること	(変更なし)
	50	H L A 抗原不一致血縁ドナーからの CD34 陽性造血幹細胞移植	輸血部門が設置されていること、院内で細胞培養を実施していること	(変更なし)

III. その他の要件

III-01 頻回の実績報告

	番号	先進医療技術名称	現 行	修 正 案
整形外	39	骨軟部腫瘍切除後骨欠損に対する自家液体室素処理骨移植	10 例まで又は 6 月間は、1 月毎の報告	(変更なし)
	61	非生体ドナーから採取された同種骨・靭帯組織の凍結保存	10 例まで又は 6 月間は、1 月毎の報告	(変更なし)
その他	3	凍結保存同種組織を用いた外科治療	6 月間は、1 月毎の報告	(変更なし)
	32	難治性眼疾患に対する羊膜移植術	10 例まで又は 6 月間は、1 月毎の報告	(変更なし)
	50	H L A 抗原不一致血縁ドナーからの CD34 陽性造血幹細胞移植	10 例まで又は 6 月間は、1 月毎の報告	(変更なし)

III-02 その他

	番号	先進医療技術名称	現 行	修 正 案
整形外	39	骨軟部腫瘍切除後骨欠損に対する自家液体室素処理骨移植	—	(変更なし)
	61	非生体ドナーから採取された同種骨・靭帯組織の凍結保存	—	(変更なし)
その他	3	凍結保存同種組織を用いた外科治療	—	(変更なし)
	32	難治性眼疾患に対する羊膜移植術	—	(変更なし)
	50	H L A 抗原不一致血縁ドナーからの CD34 陽性造血幹細胞移植	—	(変更なし)